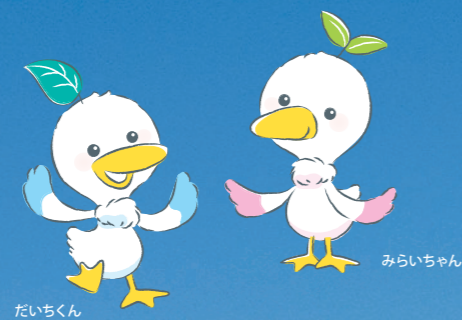




2022

大幸グループCSR 報告書

リサイクルで明日の循環経済を築く
Circular Economy



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

【お問い合わせ先】
大幸グループ CSR 事務局

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

■携帯電話からのアクセス
e-mail: sea-mew@daiko-group.com
右のバーコードを対応端末で読みとっていただければ、
直接サイトにアクセスできます。
<http://www.daiko-group.com/>



この印刷物は環境に配慮した「ベジタブルインキ」で印刷されています。

弊社は暴力団等反社会的勢力との取り引きは一切行いません (ホームページ掲載)

2023.1.1000

和歌山県 白浜

名実ともにリサイクル率 100%の 循環型社会の実現に向けて 大幸グループは邁進していきます



大幸工業株式会社 代表取締役
大阪ベントナイト事業協同組合 代表理事

浜野 廣美

戦争によって後戻りをすることがないよう 地球環境保護に取り組む

2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻は、エネルギーや食料の高騰など世界経済に深刻な影響を与えています。当社においても、廃棄物の運搬のための燃料費や処理のための電気代、薬剤の価格が大幅に上昇しています。より効率的な処理などコスト削減を進めていますが、自社の努力だけでは安定的な事業の継続が困難になってきました。そのため、お客様のご理解を得ながら、廃棄物の受け入れ単価の適切な値上げを進めています。

また、ロシアによって引き起こされたウクライナ戦争によって、CO₂の排出量が多い石炭の使用が増え、地球温暖化がさらに加速することが懸念されています。温暖化がもたらす気象変動によって、世界中で洪水や干ばつ、山火事などの被害が激化しており、脱炭素は人類の最大の課題となっています。

大幸グループは「地球を大切に」の企業理念のもと、1990年代から産業廃棄物のリサイクルに取り組み、地球環境に貢献する事業活動を行ってきました。近年では、社会全体に地球環境保護への気運が高まり、業界においても産業廃棄物処理業から資源循環産業へと画期的な転換を果たしました。戦争によって地球環境保護の活動が後戻りすることがないよう、私たちは地球環境に貢献できる持続可能な事業活動を一層推進していかねばなりません。

堺プラントで製造するポリアースが 建設汚泥再生土の認証 第1号を取得

業界を挙げて推進している資源リサイクルの本丸となるのが、ハイブリッドソイル（以下 H.B.S）の生産と普及です。そのお話をする前に、これまでの歩みを簡単に振り返っておきましょう。

私たちの業界では10年以上前から、大都市圏でのインフラ再整備工事などで大量に発生する建設汚泥やコンクリート塊を適切にリサイクルし、国土強靱化工事などの公共工事に活用していくという提言を国に行ってきました。その提言が実を結び2020年7月に環境省通知「建設汚泥処理物等の有価物該当性に関する取扱いについて」が発出され、再生利用されることが確実な建設汚泥処理物等の取扱いが明確化されました。これを受けて公的な第三者機関である公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団が厳格な審査を行い、認可された施設で生産される再生品（建設汚泥再生品、コンクリート再生砕石等）が公共工事に使用されるというスキーム（枠組み）が構築されました。

当グループではこのスキームに則って再生土（ポリアース）を生産する堺プラントを再生品の製造施設として審査を受け、2022年6月に建設汚泥再生土の認証（建設汚泥再生品等の有価物該当性に係る審査認証）第1号を取得しました。さらに、このポリアースと再生品の認証を受けた再生砕石をミキシングする H.B.S の生産の準備を業界他社と共同で進めています。

品質・価格・環境に優れた リサイクル製品の普及を促進していく

H.B.S が津波や大型台風から命やまちを守る国土強靱化工事に使用されるためには、山土など従来の原料と同等の品質を備え、かつ価格においても従来原料と同等もしくはそれ以下の価格であることが求められます。加えて、従来よりも環境に負荷を与えないことも重要な条件です。H.B.S の品質はこれまでの各種の試験で「粒径幅の広い」「分級された」「粒度分布の良い土」と評価されており、盛土など様々な建設工事に対応できる良質の原料（リサイクル製品）と認められています。価格においても大量生産で山土と同等以下の価格に抑えることができます。環境配慮の点も、H.B.S は山土のように採取のために森林を破壊しないリサイクル製品であり、かつ海上輸送を活用することで陸送に比べ CO₂を約40%削減できるというメリットがあります。

リサイクル製品を普及させるためには、供給を上回る需要が必要です。公共工事で環境性能に優れたリサイクル製品を積極的に採用してもらえよう、私は全国産業資源循環連合会政治連盟の副理事長として、議員の先生方へのプレゼンテーション活動に尽力しています。公共工事でリサイクル製品が使われれば、日本の建設工事は名実ともにリサイクル率100%を実現できます。

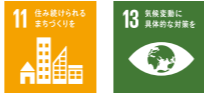
私たち大幸グループは、事業活動を通して地球環境保護をはじめとした社会課題の解決に邁進していきます。どうか一層のご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

企業理念

私達は「地球を大切に」という合い言葉のもとに地球環境時代にふさわしい企業をめざしています。リサイクル技術の開発など、産業廃棄物を地球にやさしく還す方法を常に追い求め、この大切な地球環境をすばらしい状態で未来に残したいと心から願う人間の集まりです。



地域と連携・協働し、合同防災訓練を「津波避難ビル兼車輛センター」で実施



大幸グループでは、大規模災害時に人命と設備を守るBCP(事業継続計画)拠点「津波避難ビル兼車輛センター(以下、「避難ビル」)」を2019年に建設しました。大阪市住之江区および、さざんか平林協議会と三者協定を締結し、地域の皆さまの生命を守る「津波避難ビル」(指定緊急避難場所)として指定されています。新型コロナウイルス感染対策による行動制限の緩和を受けて、2022年11月、住民、区役所・消防署の方々と共に、避難ビルでKTK防災対策実行委員会「第5回防災訓練」を実施しました。



大幸グループの浜野取締役が住民の皆さんに施設概要や避難方法を説明

住民、区役所・消防署の方々と共にKTK防災対策実行委員会「第5回防災訓練」開催

大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会(KTK)に設置した「KTK防災対策実行委員会」(委員長=大阪大学教授 乾 徹 氏)は、2022年11月7日、「南海トラフ地震による津波を想定した車両移動および避難」をテーマに、第5回防災訓練を実施しました。今回は地域のさざんか平林協議会役員ほか住民10名に参加いただき来賓と共に避難経路を移動。また運輸部・吉岡課長の指揮で従業員が避難誘導と車両移動を行いました。

開催にあたって乾委員長は「災害時には、想定外の出来事への対応が重要になる。訓練後に多くの意見をうかがいたい」と挨拶。今回も詳しい訓練内容を開示せず、終了後の意見交換によって課題分析・顕在化する方式で実施しました。訓練後、「拡声器を用意したい」、「避難経路の表示板がほしい」、「大勢の避難に備え、非常階段とスロープへ経路分散を」、「一時、非常階段が対面通行になり危なかった。そうしたヒヤリハット事例を改善したい」など建設

的な意見が集まりました。終盤、大幸グループの浜野取締役が「この避難ビルの最大の特長は、車いすやベビーカーにも優しいスロープがあること。今後の訓練を通じて認知度を高め、地域のお役に立ちたい」と述べました。いただいた意見は集約され、対策強化の参考材料として用いられます。



KTK 防災対策実行委員会 委員長 乾 徹 氏

この日は、住民の方々への施設案内も行われ、大容量の自家発電機や、避難場所となる事務所棟などの説明が行われました。

◆ 住民の方々が避難ビル施設を見学



従業員の誘導で、住民の方々が非常階段を上って避難



カフェタイプの休憩室



ドライバー仮眠室



車と接触しないよう従業員の誘導でスロープを移動



地域との協働活動として行われたKTK防災対策実行委員会「第5回防災訓練」



訓練後、活発な意見交換を行う様子



立体駐車場の最上階にある青い歩行者通路を移動

来賓からひとこと



さざんか平林協議会 副会長 佐野 悦子 氏

平林地域住民の39%は高齢者。災害時の避難が課題となるなか、防災訓練へのお声掛けをいただきました。地域のことを考えてくださり感謝しています。この訓練を機に避難ビルの認知度や防災意識が高まると思います。来年は20人参加を目指したいです。



大阪市住之江区役所 防災安全担当課長 井手 祥三 氏

コロナ禍の影響でここ数年、大人数での防災訓練は難しかったと思います。区内でも中学校・地域連携による防災の取り組みを始めていますが、今後は企業・地域の連携も重要になります。定期的な訓練で経験を積み、災害時に役立てていただきたいです。



大阪市住之江消防署 地域担当 消防副士長 畠中 俊雄 氏

企業と地域が連携して防災訓練を行う事例は少なく興味深い取り組みです。双方のつながりが深くなれば、災害にも強い地域になると思います。津波は地震の後に遅れて到達するため、人や車両の避難にタイムラグが生じるはず。ご参考をお願いします。



大阪ベントナイト事業協同組合 堺プラント 航空写真

大阪ベントナイト事業協同組合 堺プラントで製造される「ポリアース」が 建設汚泥再生土 第1号 (SDA01001) として認証されました

国内初 環境省の 建設汚泥処理物等の有価物該当性に関する取扱い(通知)を 航空写真で明確に情報公開した大阪ベントナイト事業協同組合 堺プラント

環境省からの令和2年7月20日付通知に「建設汚泥処理物等が、飛散・流出又は崩落等の生活環境の保全上の支障や品質の劣化を発生させずに適切に保管」と記載されており、これを忠実に順守した施設です。すなわち、建設汚泥処理物等はすべて屋根のある施設で保管されています。



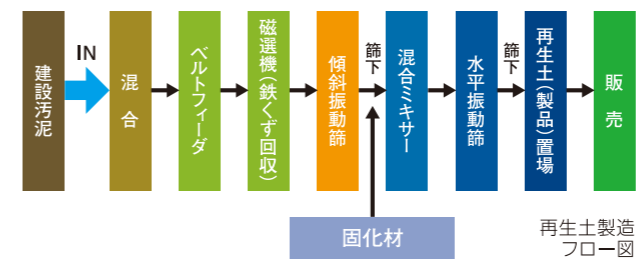
固化再生施設(屋外部分)大型集塵機等



製品倉庫へのベルトコンベア

ハイブリッドソイル事業に対応した 堺プラントの紹介

大阪ベントナイト事業協同組合 堺プラント(大阪府堺市西区築港新町)は、建設汚泥受入ピットから製品倉庫まで密閉式ベルトコンベアで連結し、連続再生処理されています。このため、一目で製造工程が確認できます。また、三連の磁選機と機械式による異物除去装置に加え、目視(人力)による異物除去を実施しています。回収した鉄くず等はリサイクルされ、新たな天然資源の消費削減に貢献しています。屋根のある製品倉庫に保管された再生土は、密閉式ガット船(クラブ付自航運搬船)にて粉塵対策をし、品質が降雨による影響を受けないように運搬されます。このため、将来建設されるハイブリッドソイル工場に徹底した品質管理のもと製品として出荷することができます。また、品質管理だけでなく1200m³/minの屋内換気用大型集塵機を2基、局所集塵機2基を設置し労働環境改善を優先した施設となっています。



プライベートバースではベルトコンベアにて船積み



密閉式ガット船



粉塵対策及び降雨による影響を受けないよう密閉式ガット船で運搬

将来どのようなハイブリッドソイルが製造されるのか紹介します

大阪ベントナイト事業協同組合 堺プラントのハイブリッドソイルは 再生砕石と再生土を $Uc \geq 10$ かつ $1 \leq Uc' \leq 3$ になるように人工的に配合されるため「粒径幅の広い」、「分級された」、「粒度分布の良い土」となります。ハイブリッドソイルの原料となる「建設汚泥」は、建設汚泥受入ピットに入荷する前から JGS 0051「地盤材料の工学的分類方法」三角座標による分類を根拠にISOにて厳選管理されています。これにより再生砕石と再生土を混ぜたハイブリッドソイルの強度コーン指数は $qc=10,000 \sim 20,000$ (kN/m²)以上で、透水係数は $K=1.0 \times 10^{-6} \sim 1.0 \times 10^{-6}$ m/sあたりを推移します。土粒子を分析し評価することで、製品化した際の「質」の目安になります。

ハイブリッドソイルの品質は、「JIS A 1204」に準じ、乾式篩による粒度試験からハイブリッドソイル(GS砂質礫)やハイブリッドソイル(GS-F細粒分まじり砂質礫)のように、地盤材料の観察と塑性図から判別分類される三角座標(JGS0051)の極めて狭い範囲内に収まるように厳格にISOで品質管理することを目指しています。よって、「国土強靱化

達成への貢献」を目指した、再生土と再生砕石を原料にした再生土木資材の10万m³以上の大規模な用途利用の拡大を図ることが可能となります。



大幸工業株式会社 専務取締役
大阪ベントナイト事業協同組合 専務理事 浜野 雅浩



大幸工業株式会社・大阪ベントナイト事業協同組合 取締役 管理本部長 浜野 真季

地域の皆さまと共に SDGs達成を目指し、新たな時代へ



互いが互いを思いやる 働きやすい職場づくりに向けて

2022年夏、新型コロナウイルス第7波による大流行が起りましたが、これまでの経験によってイレギュラーな状況にも冷静・迅速に対処する体制が整い、大きな影響なく乗り切ることができました。従業員および、地域の皆さまに感謝を申し上げます。

予測が困難な時代にあって、各部署の垣根を越え大幸グループ全体の業務を前へ進めていこうという動きが従業員の間で広がっています。たとえば、営業部署が車輛センターやプラント業務の応援に出向く、ドライバーが担当車種の枠を越えてオールマイティに運転する。互いを思いやる行動が相乗効果を生み、非常に頼もしく、嬉しく感じてい

ます。一人ひとりが全体に配慮して、バランス感覚を保ちながら意思共有を行い、モチベーションを高めていくことが大切だと考えています。

業界全体の課題として、労働力不足が拡大するなか、さまざまな意味で発想の転換が求められているのではないでしょうか。大幸グループでは、新たな方法を取り入れ雇用を促進していきます。また、急速な円安の進行や物価高騰に対応して、通勤費の特別手当や報酬面でサポートを行い、働きやすい職場づくりを目指します。一歩ずつではありますが、多くの意見を取り入れながら、今後も前向きな活動を進めてまいります。

地域の皆さまと手を携え 子どもたちの輝く未来を拓く

「津波避難ビル」としての役割を担う車輛センターでは、新型コロナウイルス感染対策による行動制限の緩和を受け、2022年度のKTK防災対策実行委員会 第5回防災訓練を地域の皆さまと共に実施しました。ご参加いただいた住民の皆さま、住之江区役所、住之江消防署、有識者の先生方から、よりよい防災対策に向けて多数のご意見をいただき、深くお礼を申し上げます。

また、2022年度も定例通り、地域の寄せ植え教室を春と秋に開催することができました。新型コロナウイルス感染対策を講じ、少人数でのアットホームな会となりましたが、



KTK防災対策実行委員会 第5回 防災訓練



地域寄せ植え教室で司会を務める様子

振り返れば十余年にわたり継続しており、ご参加いただいた皆さまに改めて感謝の意をお伝えいたします。今後も地域の皆さまと和やかに話できる場となり、他の地域活動へと広がる基盤となることを願っています。

大幸グループは、事業活動を通して地球環境保護、SDGs達成に向けて歩んでまいります。そして、地域の小中学校との連携、協働を通し、子どもたちの将来、よりよい未来につながる実質的なSDGs活動を展開したいと考えています。何卒、今後も一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

毎月のドライバー研修に 実例ビデオ教材を活用

危険予知訓練により事故を未然に防ぐため、ドライブレコーダーの映像を用いたビデオ教育を月例研修に導入しました。実際の事故事例の映像から、どのような場面に危険が潜み、どうすれば回避できるのか、受講者が自ら考え、筆記試験に回答します。実質的な安全教育として継続し、ゆくゆくは、自社内で安全や危険予知に関する発表・ディスカッション等の実施など、一層の教育体制の充実を目指します。そのほか、万一の事故に備え、指導記録の独自フォーマットを作成し、無事故・無違反の徹底に向け取り組んでいます。



実例ビデオを用いた乗務員研修



牽引免許が必要な20tタンクセミトレーラー

社内制度・先輩社員の支援を受け、 牽引免許取得に挑戦し達成

事業の継続・持続的成長に向けて、従業員一人ひとりが業務に要する技能・知識の向上と自己実現を果たすため、さまざまな資格・免許の取得サポートを行っています。2022年度、運輸部では2名の若手ドライバーが社内制度を利用し、牽引免許を取得しました。本人の努力はもちろん、上司・先輩による支援・見守りがあってこそその成果です。高い目標に挑戦する意欲と、力強いサポートが、より良いシナジー効果を生み出しています。

〔牽引(けんいん)免許〕

車両総重量750kgを超える他の車(トレーラーなど)を牽引し、運転するために必要な運転免許。大幸グループの車輛センターで管理する車種のなかでは、20tタンクセミトレーラーと18tタンクフルトレーラーの運転に必要となります。

「イノベーショングループ」



車種を横断してオールマイティに運転する部署です。イノベーションとは「革新」などを意味し、新しい価値の創造を目標としてメンバーらが名付けました。

運転技術の幅が広がりました

藤澤 隼人 (イノベーショングループ)



いずれトレーラー(牽引車)に乗りたいと思っていたところ、先輩から声を掛けていただき、牽引免許の取得に挑戦しました。セミトレーラーは全長約16mあり、連結部分が「く」の字型に折れるので、バックするときの操縦がとても難しいのですが、なんとかクリアし、運転技術の幅を広げることができました。現在は、社内の全車種を運転する「イノベーショングループ」に所属しています。仕事全体がスムーズにまわり、動きやすくなればいいと思っています。

緊張と同時に運転の楽しさも体感

勝山 広史 (イノベーショングループ)



トレーラーを乗りこなす先輩を見て、自分もそうなりたと思っていたので、お声掛けいただいて、迷わず教習所へ通いました。教習は勤務後の遅い時間帯で、技術的にも難しいのですが、なんとか無事に合格。先輩に助手席へ乗っていただき、狭い場所への車庫入れなどを練習できて感謝しています。一人で乗り始めた今、緊張と共に楽しさ・面白さも感じています。将来を考えると、多くの車種に乗車できた方がいいし、勤務シフトにも柔軟に対応できると思います。

先輩社員の声

利点の多い牽引免許、挑戦を後押し

大倉 隆伸 (ドライバー 統括リーダー)



会社上層部とドライバーのパイプ役として、双方の希望がかなうよう、牽引免許取得の声掛けを行いました。藤澤くん、勝山くんは、YouTubeでトレーラーの車庫入れ方法を見たりしながら、よく練習していましたね。練習中は、あまり口うるさく指導せず、成功体験を繰り返すことで習得できるよう心掛けました。牽引免許を取れば報酬も上がるし、メリットしかないと思っています。結婚、子どもの誕生など、きっかけはなんでもいいので挑戦してもらえば後押しします。



先輩が助手席に乗り指導しています

新宅 正治 (ローリー チームリーダー)

車種ごとに構造が違い、トレーラーはバックでの車庫入れが高難度です。操作のタイミングが大事になりますが、2人とも若くて覚えるのが早かったですね。牽引免許は教習所に通えばだいたい取れるのですが、実務を始めてからが大変です。だから、運行管理部の許可を得て、先輩が助手席に乗り指導しています。雨の日や夜間は暗いので、車庫入れ前に物が置いていないかと、降車し確認することも大切です。何より安全第一ですね。



運転に誇りが持てるし報酬もアップ

柿島 勇夫 (トレーラー チームリーダー)

20tタンクセミトレーラーは、10t車の2倍も積み込み、技術的に難しい分、運転に誇りを感じることができます。後輩には「うまい人の運転を見て覚えや」と助言しています。液漏れには重々注意が必要で、丁寧に仕事をするのが不可欠ですね。若い人に伝えたいのは「仕事を選ばずチャレンジすれば、それだけの報酬が得られる」ということ。昔と違って車内の居住性がよいし、キツイ仕事というイメージは大きく変わっています。



2022年5月20日の第20回「寄せ植え教室」



大幸グループの浜野取締役が、地域の皆さんに挨拶



さざんか平林協議会の佐野悦子副会長と地域の参加者、浜野取締役

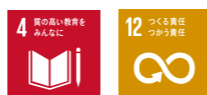


多肉植物の寄せ植え作業



親睦会

地域の皆さまと共に 社会貢献活動を継続的に実施



再生品の製造による資源循環システムの構築、環境負荷の少ない廃棄物処理により、サステナブル社会の形成をめざす大幸グループ。その事業は地域の理解や信頼を基盤とするもので、長年にわたり地域清掃、環境学習など地道な地域貢献活動に努めてきました。2022年度も新型コロナウイルス感染防止対策を施し、可能な限り活動を実施。今後も地域の皆さまと共に、環境に資する活動を推進していきます。

地域との信頼の輪を紡ぎ、未来へ育む 第20回・21回「寄せ植え教室」開催

2011年から継続して行く、地域の「寄せ植え教室」が、2022年5月で20回目、同12月で21回目を数えました。

ピークと収束を繰り返すコロナ禍にあって、さざんか平林協議会と協働し入念な感染対策を講じて、少人数ながら例年通り平林福祉会館にて実施することができました。

節目となる20回目は、葉や茎に水を蓄えた多肉植物を初めて採用。ブリキ缶の寄せ植えが完成すると、会場で「ぷくっ

とした葉がカワイイ」「インテリアにいいね」との声が聞かれました。

寄せ植え教室は、エコリサイクル土を使った環境学習として、また共になごやかに過ごすコミュニケーションの場として定着し、地域・従業員合同の防災訓練など、他の活動へ広がる契機となっています。今後も協働により、未来へ向け活動を推し進めていきます。

安全・快適で美しい街づくり KTK道路清掃美化キャンペーン

大幸グループが中心となって取り組んでいるKTK道路清掃美化キャンペーン(環境対策協議会主催)は、安全で持続可能なまちづくりに貢献すると共に、子どもたちを含む地域全体の生涯学習の場となっています。2004年(平成16年)にスタートし、年々参加者が増加。大幸工業(株)とKTK会員企業50社の社員・家族に加え、地元町会の方々100人以上、自治体各部署、その他賛同者の計400人超が集まる大規模な地域イベントに成長しました。1回あたりのゴミの収集量は、2トトラック10台分にのびります。



第1回:2004年7月25日
参加者100名

■参加人数の変遷

第1回	2004年	100名	第9回	2012年	410名
第3回	2006年	160名	第11回	2014年	365名
第5回	2008年	264名	第13回	2016年	433名
第7回	2010年	270名	第15回	2018年	423名



第15回:2018年10月14日 参加者423名 ※2020年~2022年はコロナ禍により、開催を自粛しました。

教育への活用 SDGs教室

CSR報告書を使った、持続可能な開発のための教育(ESD)への支援活動



教育プログラム(ESD)の流れ

国連決議の「持続可能な開発目標(SDGs)」や、国策である「地域循環共生圏」、「ローカルSDGs」、「地球温暖化防止」、「防災減災対策」、「国土強靭化」などは、地盤環境系大学の工学的研究や就職活動で優先される重要なキーワードです。また、企業の持続可能な成長戦略に必要な「トップコ

ミットメント」、「環境(E)/社会(S)/ガバナンス(G)経営」、「BCP(事業継続計画)」、「新型コロナウイルス対策」、「地域貢献活動」などのキーワードも、持続可能な成長戦略に必要な基礎知識です。



▲「CSR報告書」表紙・裏表紙

大学の授業や社会人研修でCSR講座を開催する意義



CSR/ESG/SDGsを意識すると
「企業の社会的責任(CSR)」
「環境社会企業に投資(ESG)」
「循環型経済でよい社会(SDGs)」
 となります。

社会経験が浅い大学生や新社会人に180~360分の授業でCSR/ESG/SDGsを大まかに読み取ることができるように編集しているのが大幸グループのCSR報告書です。大学生や新社会人はCSR報告書を精査・評価することでCSR/ESG/SDGsが理解できます。SDGs達成を目指したトップ経営者のコミットメントとESG経営を、CSR活動報告書から精査し、企業の持続可能な成長戦略を評価することができます。実践的にCSR/ESG/SDGsなどのキーワードや基礎知識の理解が深まります。

CSR講座開催の効果

2021年度までに大学発CSR/ESG/SDGsを学ぶCSR講座は、1講座180分で7回(北大、阪大、長崎大)、環境省 切川卓也 課長補佐による特別講演が長崎大で開催されました。授業前の学生アンケートではCSR/ESG/SDGsの認知度は50%でした。企業の社会的責任(CSR)への関心が世界的に高まるにつれてCSRの統一規格が求められており、ISO26000(国際標準化機構の社会的責任規格)に準拠した企業や、責任ある企業活動として適切な情報開示を行うため、「GRIサステナビリティ・レポートング・スタンダード2020」の中核(Core)オプションに準拠した報告を行っている企業もあります。大幸グループでは、引き続きCSR報告書を使った持続可能な開発のための教育(ESD)への支援活動を行ってまいります。

CSR報告書をESDの教材として活用できるように再編集

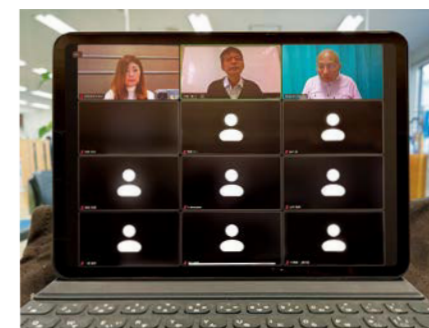
大幸グループは、CSR報告書で事業(モノ・ヒト・コト)の可視化を試み、2019年から大学の授業や社員研修でESDの教材として使えるよう再編集しています。大幸グループCSR報告書と環境省・環境報告ガイドラインを教材に、国立大学などでCSR/ESG/SDGs 講座を開催し、その基礎知識と持続可能な成長戦略を学ぶ教育(ESD)を展開しています。



例年発行のCSR報告書を、2019年からESD教材として再編集

大幸グループCSR報告書と環境省 環境報告ガイドラインを教材に、2022年11月21日・24日、長崎大学 教授 大嶺 聖氏の指導のもと、90分の授業と、90分の学生による意見発表会が実施されました。「天文学的な投機資産をSDGsやESD経営に誘導するか、大量破壊兵器製造に投じるか」、「化石燃料に頼るか、原発に頼るか」。コロナ前とコロナ後、世界の食糧庫ウクライナへのロシアによる侵攻を踏まえて、活発な意見が交わされました。

特に、ダイバーシティとインクルージョンというテーマに関して、課題を自分事として捉え、「異なる価値観を受け入れ、他者と協働して生きていきたい」という意見が多く述べられました。



長崎大学 教授 大嶺 聖氏の指導で行われた授業と、学生の意見発表会(リモート画面)

大幸グループの地域学校協働活動事業

泥フェスティバル2022開催で「2100年温暖化1.5℃達成、啓発活動」

『2100年温暖化1.5℃目標』を達成すれば、貧困・飢餓、健康、生態系、産業活動や経済成長などの様々な面において、温暖化の悪影響が緩和されます。『泥フェスティバル』は、すべてのアクター(自治体、ビジネス、市民社会など)が参加して、投資の増加、政策、イノベーションの加速、行動変容を訴える活動です。

『地球を大切に』を願い、優しく泥・粘土を触り、両手で上手にコントロールして制作する泥だんごは、誰とでも友達になれるコミュニケーションツールです。自然の泥・粘土を使った『風船を型枠に中空の泥だんご作り』や、『CSR・ESG・SDGs講座』、『土・泥学講座』などの座学で、地盤環境分野の次世代を担う人材育成を行っています。



持続可能な開発目標SDGs4.7達成を目指した学習教材

和泉市立南松尾はつが野学園 泥フェスティバル2022

和泉市立南松尾はつが野学園は、大栄環境グループの廃棄物処理施設や最終処分場に隣接する、閑静な住宅街に建設された、大阪府内で2番目となる施設一体型・小中一貫教育校です。大幸グループ(代表取締役社長 浜野 廣美)と大栄環境グループ(代表取締役社長 金子 文雄氏)は、生徒数600人の南松尾はつが野学園で環境探求 泥フェスティバルを2019年から協働開催しています。2020年と2021年は

コロナウイルス感染拡大のため開催中止となりましたが、保護者からの強い要望で2022年11月6日に再開しました。泥フェスティバル2022では、大阪大学 教授 乾 徹氏、大阪大谷大学 教授 地下 まゆみ氏、ゼミ学生の皆さんに応援に来ていただき、泥だんごをはじめ、泥せっけん、アルガン泥乳液、アルガン泥クッキー、泥電池など、泥文化を子どもたちと保護者に楽しく体験していただきました。



大幸グループ・大栄環境グループ協働開催で実施



泥せっけん、アルガン泥乳液、アルガン泥クッキー、泥電池などを楽しく体験

大幸グループのCSR活動が書籍で紹介されました



学習指導要綱の改訂により、2022年度から「総合的な学習の時間」は「総合的な探求の時間」に変更となり「理数探求」「古典探求」が新設されました。これに伴い、環境探究学研究会(編著)の書籍「探求学習のすべて」が合同出版から出版されました。その中で、大幸グループの持続可能な成長戦略を学ぶ教育(ESD)として、大幸グループCSR報告書を教材に使った授業が紹介されています。

〈環境探究学研究会「探求学習のすべて」より抜粋〉



2020年1月 長崎大学講座開催



2020年1月 長崎大学講座開催
(女性活躍状況の見える化)

ハイブリッドソイル(H.B.S)事業推進のため、 大阪大学インターシップ実習生の 受け入れを協働で実施

大幸グループでは、ハイブリッドソイル(H.B.S)事業の計画を進めています。H.B.S事業は当グループの堺プラントで生産する再生土(ポリアース)と、コンクリート塊などから生産される再生砕石をミキシングしてできるリサイクル資源で、国土強靱化の公共工事などに使用されます。H.B.S事業推進のため、一般財団法人 地域地盤環境研究所との協働により、大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻博士前期課程(指導教官 教授 乾 徹氏)のインターシップ実習生を受け入れています。



●従事内容:「建設汚泥処理土とコンクリート再生砕石から製造するリサイクル材料の土質力学的特性評価に関する実験業務」



職場体験学習

地域の中学生が、持続可能な経済活動を促進する知識および技能、質の高い技術教育・職業教育について学び、将来の社会的自立を促すため、2014年より大阪市立新北島中学校の職場体験学習を受け入れています。参加した中学生は、車輛センターで保有するベッセル車とダンプ車について学び、水密性の高いベッセル車は、運転の振動で廃棄物の水分が分離してもこぼれないことを確認。また、大型車の死角を学び安全につなげる試乗体験、事務体験などを行い、2日間の日程を終えます。



住之江区子ども会育成連合 協議会 体育事業後援

地域の子どもの健全なライフスタイル育成、平等で平和な文化の推進を目指し、住之江区子ども会育成連合協議会体育事業に賛同、後援を行っています。同事業は各種目で活発に活動が続けられており、大幸グループもソフトボール大会、キックベースボール大会の開会式などに出席し、子どもたちの健康増進と成長を応援しています。



学生と幼児の食育活動に向けた 改良土寄付に感謝状

相愛大学人間発達学部へ、2017年に改良土の寄付を行いました。改良土は再利用を目指して製造されており、教師を目指す学生と地元子どもたちに、野菜を栽培する畑の用土として、現在も使用されています。このプログラムは、学生と子どもが共に土に触れ、野菜を育て、収穫して食べる、という一連の流れの中で、食育について学ぶもの。プログラムへの理解と改良土寄付に対し、2018年3月、学校法人相愛学園より感謝状を受領しました。



チャレンジを応援し、成果に報いる 安全で働きやすい職場環境をめざす



大幸グループは、環境・社会貢献につながる事業継続と持続的成長をめざし、従業員が主体的に考え行動できる職場づくり、健康的に過ごし生産性向上を目指す働き方改革に取り組んでいます。

挑戦する人への支援と成果に対する正当な評価を推進し、モチベーションを高める各種の表彰制度を設置。

また、多様な人材が安心・安全に働ける環境づくりをめざした定年後の継続雇用制度、育児・介護休暇制度など、福利厚生充実を図っています。

さらに、従業員研修や講習会、定期刊行物の発行を通じて、情報共有と組織力強化に取り組んでいます。

グループ内表彰

大幸グループでは、長く職場の戦力として実績を積んだ従業員に対し「永年勤続表彰(10年・20年・30年)」を行っています。また、定年退職者に、親睦会より感謝の気持ちを込めて記念品を贈呈しています。

さらに、働きがいのある職場づくりに向けて、「優良従業員表彰」「優良乗務員表彰」および、洗車に特別努力した乗務員へ「車両ぴかぴか賞」の表彰を実施しています。



20年勤続表彰 ●岡本 有司



30年勤続表彰 左から ●松永 千秋 ●堀江 俊克

※2022年度、勤続10年表彰の該当者はいませんでした。



優良従業員表彰 左から ●中村 実邦子 ●佐多 直哉 ●中戸 久男 ●植田 伸太郎



優良従業員表彰 左から ●西 雅行 ●重信 千恵 (代理) ●宮里 佳照 (欠席) ●今村 政和 ●田上 伸一

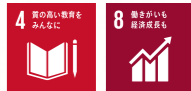


優良乗務員表彰 左から ●高元 潤 ●久保田 真一



車両ぴかぴか賞 左から ●柿島 勇夫 ●荻野 光男 ●安田 昌弘

※新型コロナウイルス感染拡大につきマスクを着用



定年後の継続雇用・嘱託就業 〈継続雇用制度を利用し、各部署で活躍〉

年金支給開始年齢の引き上げ、社会的な労働力不足を鑑みて高齢従業員の戦力化を図るため、定年後の単年契約による再雇用に加え、65歳以降の継続雇用延長を実施しています。技術と知識を次世代へ伝承する定年後の人

材は、事業を支える大きな力であり、社員それぞれの希望を考慮しながら再契約を更新。各自の経験や能力・役割に応じた活躍を期待して、後進へ技能・知識・マンパワーを引き継ぐ環境づくりに努めています。



◆運転一筋、定年後もスキルを活かして

運輸部 ドライバー 柿島 勇夫

入社以来40年近く乗務員として勤務。4t車から乗り始め、大型のプロアー車、高圧洗浄車、トレーラー、ベッセルダンプにも乗車していました。運転・作業において、車種それぞれに注意点があります。60歳で嘱託勤務になりましたが、体が動くうちは働きたいですね。



育児・介護休暇

女性の活躍推進、雇用継続に向け、仕事と家庭生活の両立を支援する育児・介護休暇制度を設置し、従業員が安心して就業できる環境づくりを行っています。職場の理解・支援によって制度を利用しやすい環境づくりを推進し、新生

児の育児、高齢者の介護、病床にある家族の看護等、個別にヒアリングを実施。正当な理由に基づき、所定時間外労働の免除、深夜業務の制限、時間短縮その他の支援を行っています。



◆職場復帰し、周囲の協力のもとで勤務

運輸部 事務員 堤 里栄

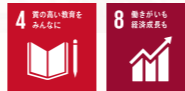
育児休暇を1年余りいただき職場復帰しました。息子は保育園へ通い始めるとよく熱を出すようになり、仕事を休まざるをえない日も。職場の理解・協力のもと、段取りと進捗報告に気を付け、やっと回る状況ですが、仕事に集中できるのは気持ちよく充実した時間です。



◆育児休暇中、上の子の寂しさにも配慮

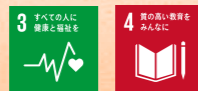
運輸部 ドライバー 藤澤 隼人

長女に続く2番目の子どもは双子の男子。育児休暇を早めに申請し、14日ほど休みをいただきました。妻はどうしても双子に手を取られるので、2歳の長女が寂しい思いをしないよう気を付け、2週間を過ごしました。父親も育児休暇を取得しやすい職場だと思います。



従業員研修

大幸グループでは、入社3カ月間、全部署の業務を学ぶ新入社員研修、管理職による大幸未来育成会をはじめとしたセクションごとの研修、各プラントを統括する視点を育み相互活性化を図るプラント人材交換制度等、これまでに取り組んできた様々な活動を通し、各分野の人材育成に尽力しています。また、公正採用選考人権啓発推進員の新任・基礎研修への参加等により公正公平な職場環境を促進。事故や課題の共有化によって、より安全な勤務体制と、風通しのよい環境づくり、一人ひとりの資質向上・成長を目指しています。



資格・免許取得サポート

車輛センターで安全・確実な輸送を管理する運行管理者や、プラントにおける重機オペレーターの各種資格・免許の取得を支援するため、研修への参加費や、資格試験・免許取得に関する費用負担を実施しています。資格・免許の取得は、業務的な必要性ばかりでなく、個人の技能を伸ばし、成長を促すため、大幸グループを挙げて推奨しています。



健康診断と人間ドック

若年から壮年、熟年に至るすべての従業員の健康と福利厚生を推進するため、大幸グループでは健康診断(特定健診・特定保健指導)に加え、人間ドックの利用促進にも力を注いでいます。これらは、疾病・潜在疾患の早期発見、予防、適切な治療への導線となるものです。人間ドックは、従業員の高額負担抑制に向け大部分を補助し、気軽に利用できる体制を整えています。

また、働き方改革の一環として、有給休暇の取得しやすい環境づくりを促進し、有意義な休暇と休息による心身の健康増進と、生産効率の向上を目指しています。

大幸グループ通信

大幸グループ全体の情報共有を目的とした情報誌を、隔月サイクルで刊行しています。掲載内容は、私たちが関わる環境事業の現況と今後の方向性、地域の情報、行政の指導や指針の紹介、関連企業の最新情報など。すべてのスタッフと、その家族に向けて、環境事業内容と目指すベクトルについて広報を行い、グループ・関連企業の一体化と環境意識の啓発に努めています。



責任意識を重視したリスク管理、グループ目標と社会倫理の理解・実践



安全衛生、危機管理、セキュリティといった各分野において積極的にコンプライアンスに取り組み、従業員への啓蒙・教育と周知徹底に努めています。また、従業員の一人ひとりが大幸グループの目指す持続可能な方向性を理解し、守るべきルールを順守して、有効・効率的かつ適正に行動するよう指導しています。

労働安全衛生への取り組み

大幸グループの安全衛生への取り組みは、朝礼および報告・連絡・相談・確認の徹底、そして的確なマニュアルを基にした柔軟な現場対応、特に責任意識の徹底に重点を置いています。マニュアルがたとえ完成されたものであっても、それにすべてを依存するのではなく、臨機応変に対応する、体で判断するというのが危機管理には必要不可欠な要素であるからです。特に当グループの場合、プラント、各部署によって業務の事情や状況が異なり、各プラントだけで取り扱う物や処理薬などにより対応すべき課題は異なります。

具体的には、各プラントの処理業務に応じたそれぞれに求められる的確で即時的な危機管理体制を目指し、作業着・靴・手袋・マスク等の着用といった基本的な作業姿勢、熱中症対策として水分・塩分補給の徹底、状況に応じた管理体制を、それぞれが目的意識を持って取り組んでいます。



リスクアセスメントの実施

業務には絶えずさまざまな危険因子が潜んでいます。その危険度に応じた評価を判定し、危険因子への対応策に優先順位をつけて意識的に確認しています。例えば、日々の朝礼時にKY(危険予知)ミーティングを実施しており、その日の作業内容から危険要因を指摘し合い、危険を回避するための対策を決めてから作業に取り掛かっています。

営業活動の段階でも、危険を伴う処理の契約時には有害・危険物質の存在と状況の説明、受け入れ場所やドライバー等の条件に基づいた処理要領、危険度に応じた対応を確認しています。また、事故発生時の各責任者の対応マニュアルについては、熟練の現場担当者が主体となって作成することになっています。

健全な経営を目指すコンプライアンスと教育

コンプライアンスは一般に法令順守と解釈されていますが、法の規定だけにとらわれ、厳密な規制のみ受容すると、企業としての発展性は損なわれる可能性があります。法の精神は守るべきものとし、単純な社内制度化でなく、組織が何をビジョンに機能しているのかを従業員全体が理解して、未来につながる企業へと成長していかなければなりません。

企業活動を損なう反社会的勢力に対する対応には、専従の担当者を配置して万全の態勢を取り、断固として非暴力の推進を進めています。また、グループ内の事例はもとより、ニュースの事件事例も参考として、従業員への教育・啓蒙活動を実施し認識の周知徹底を図っています。特に車両運行では、ドライバーとしての責任と自覚を携え、組織の名前を記した車両を運行しているということの重要性、状況に応じた適切な対応を行っています。

情報セキュリティ管理

情報通信の進化によって、情報管理の重要性が高まっています。情報漏えいに関しては、組織としても自己防衛的的確な形を作っていくことが必要となっています。個人情報保護法や法令による規制はあるものの、やはり従業員全員が自覚と認識をもって大切な

情報を保護しなければなりません。大幸グループは情報の管理をブロックごとに行い、その責任体系を明確にするとともに、必要な情報の共有という問題に取り組んでいます。

環境負荷に対する活動の目標と実績

地球環境の将来を考え、その基盤となる事業を推進する企業として、事業推進で生じるさまざまな環境負荷に対しては、全社、あるいは事業所、部署ごとでの課題を抽出し、年度ごとの取り組みを進めています。



2022年目標とその成果

部門	目的	目標値	具体的実施方法	評価
南港処理センター	無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	★★★★
	河川水使用量の削減	月間使用量を目標値までに抑える	構内散水の節約・放流水の制限	★★
	法規制の順守	下水排水規制値を順守する	内部分析・外部分析	★★★★
	法規制の順守	埋立基準値を順守する	内部分析・外部分析	★★★★
	地域との共存共栄の推進	近隣からの苦情ゼロを目指す	工場付近の定期清掃・近隣の意見を聞く	★★
泉プラント	無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	★★★★
	作業員のレベルアップ	社外研修の参加	設備に合わせた社外研修の実施	★★
	薬品使用量の削減	薬品使用量を目標値までに抑える	処理手順の見直し・サンプル実験の実施	★★★★
	法規制の順守	埋立基準値を順守する	内部分析・外部分析	★★★★
	地域との共存共栄の推進	近隣からの苦情ゼロを目指す	工場付近の定期清掃・近隣の意見を聞く	★★
堺プラント	無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	★★★★
	設備機器の理解	1つの設備ごとに見直し研修を開催する	メーカーのマニュアルを使用して研修を行う	★★★★
	再生品の品質確保	社内基準値を順守する	内部分析・外部分析	★★★★
	設備の月間点検	月1回実施	月間点検記録の内容に従って実施	★★★★
	重機の延命化	重機の故障ゼロを目指す	重機の定期清掃・重機点検の見直し	★★★★
本社	社員のレベルアップ	法改正に関するセミナーに参加する	セミナーの調査、研修申込等	★★
	電子 manifests の推進	紙 manifests から移行	顧客との交渉	★★
運輸部	情報公開 顧客サービスの充実	優良処理業者の維持	許可更新での申請	★★★★
	残業時間の軽減	全運転手の月残業を目標値以内にする	配車計画の効率化	★★
	法令の順守	交通違反・交通事故ゼロを目指す	道交法の順守、社員教育など	★★
	指針12項目教育	月1回実施	社員教育の実施	★★

★目標未達成 ★★目標ほぼ達成 ★★★目標達成

環境データ 中間処理場排出汚泥の化学測定結果

南港処理センター

項目	単位	廃棄物処理法基準値	最終処分場受入基準	測定値		
				最大値	最大値	頻度
カドミウム	mg/L	0.09	0.09	<0.01	<0.01	1回/月
鉛	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回/月
六価クロム	mg/L	1.5	0.5	<0.05	<0.05	1回/月
砒素	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回/月
セレン	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回/月
シアン	mg/L	1	1	<0.1	<0.1	1回/月
熱灼減量	%	-	15	11.2	5.9	1回/月

泉プラント

項目	単位	廃棄物処理法基準値	最終処分場受入基準	測定値		
				最大値	最大値	頻度
カドミウム	mg/L	0.09	0.09	<0.01	<0.01	1回/月
鉛	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回/月
六価クロム	mg/L	1.5	0.5	0.05	<0.05	1回/月
砒素	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回/月
セレン	mg/L	0.3	0.3	0.04	<0.01	1回/月
シアン	mg/L	1	1	<0.1	<0.1	1回/月
熱灼減量	%	-	15	6.8	3.9	1回/月

物品のリサイクル活動

私たちは、資源の新たな可能性と価値の発見に取り組む組織として、身近なすべてのものを注意深く見つめ、再利用を図っています。

使用済み切手も、キロ単位の重さになると換金され寄付に用いることができます。回収された使用済み切手は、ボランティア組織から切手商の手を経て、切手コレクターに渡ります。このことで新たな価値を生み出し、換金・寄付によって困窮する世界の人々の役に立ちます。



事務用品や衛生用品の梱包材など、事業活動で発生するダンボールも環境資源と考え、2014年からリサイクル活動をスタートしました。2022年(1月~12月)は200kgのダンボールを再資源化。備品・消耗品の荷ほどき後、ダンボールを所定の位置に運ぶという「ひと手間」の慣習化により、従業員の環境意識が高まりを見せています。



揺るぎない環境理念に根ざして

2022年(令和4年)度の大幸工業株式会社・大阪ベントナイト事業協同組合の環境方針が示され、地球環境の保全・循環型社会構築を目指して、事業の主軸を据え組織強化を図り、顧客サービスをさらに充実することが改めて確認されました。

年度方針・環境方針

- 社長方針 「挑戦」**
- 一、処理業から製造業への転換に挑戦する
 - 一、新しい技術開発に意気込みを持って立ち向かう
 - 一、困難な問題や未経験の事に取り組む

- 環境方針**
- 私たちは、地球の環境保全、持続可能な社会の実現が人類共通の最重要課題であることを認識し、廃棄物の適正処理、リサイクル技術及びリサイクルシステムの研究開発に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。

ISOスローガン 「考えよう 一人ひとりができるエコ」

1 安全・安定操業の確保

- ①教育、訓練を充実し個々のレベルアップ
 - ・社外研修会等へ積極的に参加しレベルアップを図る。
- ②事故、トラブルの原因を徹底究明し再発防止
 - ・事故事例検討会を実施し類似事故の再発を防止する。

2 組織の強化と業績改善の推進

- ①法令順守と情報公開
 - ・ホームページ等での情報公開を推進し企業イメージのアップを図る。
 - ・電子マニフェストの推進等により法令順守意識の高揚を図る。
- ②業績改善の推進
 - ・業績改善提案制度を推進し、全員参加で業績改善に取り組む。
 - ・ISO活動を継続し、業務の標準化と文書管理の簡素化を推進する。
 - ・リサイクル製品の品質向上を図り、顧客満足向上に努める。

3 「地球を大切に」を合言葉に、循環型社会の構築を推進

- ①車両・重機の燃料効率の向上
 - ・エコドライブの実践―急発進、急加速の防止、アイドリングストップに努める。
- ②「もったいない運動」の推進
 - ・紙使用削減、電力使用削減に努める。
- ③地域との共存共栄の推進
 - ・道路美化運動等に積極的に参加し、地域貢献に努める。

4 顧客サービスの充実

- ①顧客ニーズに対応した処理システムの開発
 - ・コスト削減等の顧客ニーズに即応したリサイクルシステムの開発を推進する。

環境マネジメント・認証取得

ISO取得状況

大幸グループは、総合的な企業風土、社員個人の社会的貢献意欲を含めたあらゆる側面において、「地球・産業・暮らしの調和」を目指しています。こうした指針により、業界に先駆けてISO9001、ISO14001の認証を取得し、環境マネジメントの社内体制を整備。リデュース・リユース・リサイクルの徹底を図るとともに、地球環境保全に役立つ技術と製品の開発に努めています。

内部環境監査

ISO9001、ISO14001取得を早期に果たした大幸グループ各事業所では、環境マネジメントシステムのPDCAサイクルに基づき、内部監査を実施。環境実績の組織的・継続的な改善システム、実績向上の推移、法規制順守などに関する審査を実施しています。

外部環境監査

内部環境監査に加え、環境マネジメントシステムの有効性を確認するため、認証機関のBMTラダ・ジャパンによる監査を受けています。例年、審査結果をもとに指摘事項の改善を実施し、環境マネジメントシステムの有効かつ適正な運用によって認証登録を更新しています。



第三者意見

「建設汚泥再生土の認証第一号」のモデル施設となるよう、さらなる品質、価格、環境に優れたリサイクル製品の普及促進に期待します。

2022大幸グループCSR報告書では、大幸グループ堺プラントが建設汚泥再生土の認証(建設汚泥再生品等の有価物該当性に係る審査認証)の第1号を取得したことが報告されています。公的な第三者機関である産業廃棄物処理事業振興財団が厳格な審査を行い、認可された再生品が公共工事に使用されるというスキームのもとでの認証となります。堺プラントは製造から保管そして船舶運送まで材料・工程を屋根で保護しており、環境省通知「建設汚泥処理物等が、飛散、流出又は崩落等の生活環境の保全上の支障や品質の劣化を発生せずに適切に保管」を忠実に順守しています。堺プラントで生産する再生土(ポリアース)と、コンクリート塊などから生産される再生砕石をミキシングしてできるリサイクル製品の搬出は船舶を使用した海上輸送とし、運搬に掛かるCO₂排出を大幅に低減することを目指しています。

CSR報告書では、従業員研修などの企業内教育、市民

参加の防災訓練、寄せ植え教室や泥フェスティバルなどの地域学校協働活動事業、そして循環型ハイブリッドソイル(H.B.S)事業推進のためインターシップ実習生の協働・受け入れや、CSR報告書を活用した持続可能な開発のための教育(ESD)の大学授業や社員研修での取り組みなど、社会においてますます必要不可欠で、健全で、強い組織作りの要になると考えられます。大幸グループの更なる発展に期待します。

京都大学
大学院地球環境学 教授

勝見 武



共通の課題や情報を共有し、 持続可能な開発をめざす



1994年、大阪ベントナイト事業協同組合と、その施設利用企業や、つながりの強い企業などが、大同団結と資質向上をめざして「大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会 (KTK)」を設立しました。現在、会員として108社(2022年12月現在)が参加しており、多様な力を集約して環境問題や廃棄物処理業界の課題を共有し、会員の技術・知識、モチベーションの向上に取り組んでいます。2022年度は、新型コロナウイルスの状況を考慮しつつ、十分な感染対策のうえ総会、講演会等を開催。2023年度も状況に応じて活動を行います。

2022年 活動内容

●令和4年度 第29回通常総会



- 企業優良従業員表彰
・(株)アイデックス
・大幸工業(株)

- ISOなど環境認証取得
・(株)ラルス



●新入会員紹介

- ・東山管理センター(株)、(株)和泉物流、
(株)俵商店、(有)吉川興業、(株)ケイエフアイ

●総会講演会

- ・大阪大学大学院 工学研究科教授 乾 徹氏
「産学が連携したCSR/SDGs/ESG教育の可能性」
- ・大阪ベントナイト事業(協)プラント統括技術長
工学博士 水野 克己氏「KTKの持続可能な戦略」



乾 徹氏



水野 克己氏

●令和4年度夏期研修会

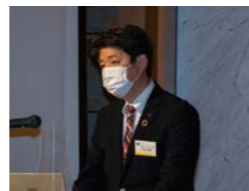
●企業PR

- ・管清工業(株) 大阪支店
「下水道管の
計画的維持管理について」



管清工業(株) 大阪支店

- ・平成ハイテック(株)
「withコロナを見据えた
働き方改革の取り組み」



平成ハイテック(株)

- ・文 盛厚氏
「僧侶になりました」



文 盛厚氏

●夏期研修講演会

- ・一般社団法人
環境地盤工学研究所
理事長
嘉門 雅史氏
「Engineer the Clay:
粘土を工学しよう」



嘉門 雅史氏

活動内容【環境対策協議会 青年部】

- 2022年…… ●総会
●研修会



大幸工業株式会社

本 社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0001
FAX 06-6686-0002

東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1-18-6
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370
FAX 03-5501-1371

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負 流動化処理土の販売
一般貨物自動車運送事業 特定旅客自動車運送事業
土木、建築工事の施工及び請負 各種清掃業

大阪ベントナイト事業協同組合

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0003
FAX 06-6686-0004

汚泥・廃酸・廃アルカリの中間処理、流動化処理土の製造
組合員の取扱う汚泥の共同処理
組合事業の知識普及をはかるための教育・情報提供

堺大幸工業有限会社

〒590-0063 大阪府堺市堺区中安井町3-4-10
TEL 072-238-3059

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
土木、建築工事の施工及び請負

大幸工業株式会社 泉佐野

〒598-0007 大阪府泉佐野市上町2丁目2-11
光ビル2階
TEL 072-429-9147
FAX 072-429-9146

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負 一般貨物自動車運送事業
ビルメンテナンス業

北部大幸工業有限会社

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-5-13
TEL 06-6226-0882

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
土木、建築工事の施工及び請負

有限会社大幸リース

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0005
FAX 06-6686-0002

機械のリース、運搬車両のリース

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



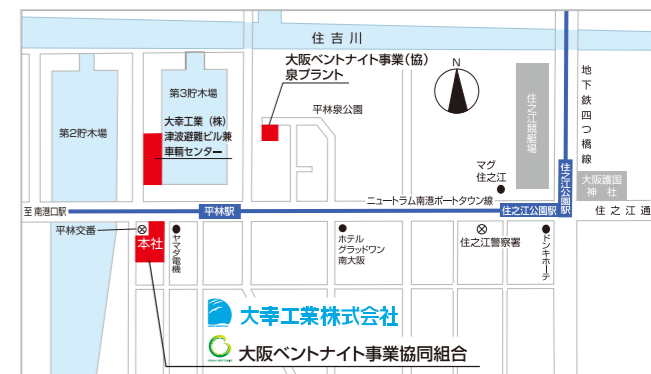
大幸工業株式会社

本 社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目18番6号
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

大阪ベントナイト事業協同組合

本 社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004



大幸グループ2022CSR 報告書 アンケート

大幸グループCSR事務局宛 E-mail:sea-mew@daiko-group.com
FAX:06-6686-0002

皆様のご意見・ご感想を、今後の活動や報告書作成に生かして参ります。
お手数ですが、下記のアンケートにご回答頂き、FAX や E メールなどでご返送頂ければ幸いです。

Q1 この報告書をどのようにしてお知りになりましたか。

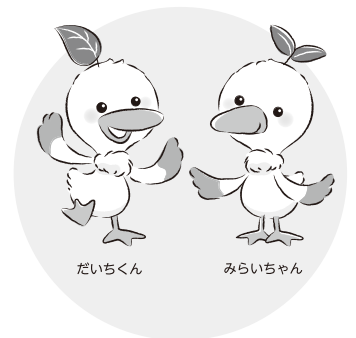
- 当グループからの送付 当グループウェブサイト 当グループ以外のウェブサイト 当グループ社員から
セミナー・講演会 その他 []

Q2 大幸グループ 2022CSR 報告書についての評価をお聞かせ下さい。

1. 全体的な印象 良い 普通 悪い
2. 分かりやすさ 分かりやすい 普通 分かりにくい
3. 内容の充実度 充実している 普通 物足りない
4. 情報量について 適切 不足 多い
5. デザイン 良い 普通 悪い

*悪かった点、分かりにくかった点等をお聞かせ下さい。

()



Q3 この報告書の中で関心をお持ちになった内容をご選択ください。(複数選択可)

- Top Message 特集／地域・社会協働活動 地域・社会貢献活動
社内環境整備と人材育成 労働安全・コンプライアンス活動
環境負荷軽減 環境方針・認証 環境対策協議会(KTK)の活動

*その理由をご記入ください。()

Q4 大幸グループのCSR活動や報告書について、その他ご意見・ご感想などがあればご記入ください。

Q5 あなたのプロフィールについてお聞かせ下さい。

- ・お読みになった立場 お客様・お取引先 企業のCSR・環境ご担当者 当社グループの近隣にお住まいの方
行政機関 金融・投資機関 NPO・NGO 研究・教育機関 学生
報道機関 当社グループ社員・家族 その他 []
- ・年代 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上
- ・性別 男性 女性

Q6 次回のCSR報告書の発送を希望されますか。

- はい いいえ

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記にもご記入ください。
※次回のCSR報告書の発送を希望される方は、お名前とご住所を必ずご記入ください。

お名前 ご職業 (勤務先・学校名) 連絡先電話

ご住所 (□ご自宅 □勤務先等) 〒

メールアドレス

ご記入頂いた個人情報及び内容は、今後のCSR活動の参考のみに利用し、他の目的には利用いたしません。



大幸グループ 2022CSR 報告書

アンケートへのご意見、ご感想を
お聞かせください

大幸グループ2022CSR 報告書をご覧頂き、
ありがとうございました。

皆様からご意見・ご感想をお聞かせ頂き、
当グループの企業活動及び今後の報告書づくりに
活かして参ります。お手数ですが、
裏面にご記入の上お送り頂ければ幸いです。



FAX:06-6686-0002

【お問い合わせ先】

大幸グループ CSR 事務局

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002